CQ1-03 外陰尖圭コンジローマの診断と治療は？

Answer

1. 臨床症状・所見により診断は可能であるが，症例によっては組織診により確定診断する.（B）
2. イミキモド5%クリームで治療する.（B）
3. 切除，冷凍療法・電気焼灼・レーザー蒸散による外科的療法を行う.（C）

▷解　説

1．尖圭コンジローマ（condyloma acuminatum）は，主に6型または11型のヒト乳頭腫ウイルス（human papillomavirus：HPV）による性感染症である．女性では，大小陰唇・会陰・腟前庭・腟・子宮頸部・肛囲・肛門内や尿道口に好発する．乳頭状・鶏冠状の外観を呈し，淡紅色ないし褐色で，時に巨大化する．診断は臨床症状・所見により可能であるが，診断が不確実な場合や治療抵抗性のとき，免疫不全者のとき，色素沈着があるとき，硬結・出血・潰瘍がある場合は生検して組織診断を行う．またHPVの型別検出が可能であれば，診断に役立つ場合がある．鑑別診断としてHPV16型感染によるボーエン様丘疹，性器ボーエン病，腟前庭部乳頭腫（類似するが治療の必要なし），扁平コンジローマ，老人性疣贅，外陰癌が挙げられる．

2．治療法は，病変の大きさ，数，場所，形状，患者の希望，費用，簡便性，副作用，担当医の治療経験などにより決定する．一般的に外陰部病変には，イミキモドクリームを使用するのが世界的には第一選択である．その適応は広く，患者にとっては侵襲が少なく，医師にとっても簡便な方法である．また再発率が低く，瘢痕などの後遺症を残す懸念も少ないなど，外科的治療法に比べ優れた点が多い．イミキモド5%クリーム，1%クリーム，プラセボを使用したRCTでは，完全消失率・疣贅面積減少率ともに有意な用量反応性が認められた[1]．その他にもイミキモドクリームの有効性を示すRCTが報告されている[2)〜4)]．

3．その他の治療法として，冷凍療法，外科切除，インターフェロンの局所注射，レーザー蒸散がある．治療法の比較として，凍結療法がトリクロル酢酸より治療効果が高いとする報告[5]や，電気焼灼・レーザー蒸散の有用性を示す報告がある[6]．視診上は治癒しても3カ月以内に約25%が再発するため，治療後3カ月間のフォローアップは必要である．

諸外国では10〜25%のポドフィリンアルコール溶液や0.5%ポドフィロックス溶液またはゲルの外用薬が用いられているが，日本では発売されていない．また5-FU軟膏は2008年の日本性感染症学会ガイドラインには記載されていない．

妊娠中に尖圭コンジローマの病変を認めた場合，帝王切開術が新生児の喉頭乳頭腫症を予防できるかは不明であるが，病変が大きく産道狭窄や大出血の原因になると考えられる場合は，帝王切開を考慮する[7]．イミキモド5%クリームは妊婦に対して，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用する．

パートナーも本人と同時に罹患していることが多いため，現在症状がみられなくても数カ月後に新たに発症する危険性が高いので，注意するよう指導する．